



【第5回町民読書感想文・画コンクール特選作品紹介】

本があると、 人生は楽しい

The life having a book is pleasant

小学生 低学年の部
中川根南小1年 勝山穂乃香
かたあしだちょうのエルフ

わたしが、このほんをよんでみたい。とおもったとき、は、だちょうのあしはふつう二ほんなのに、どうしてエルフのあしはかたあしなのかな。とふしぎにおもったからです。だちょうのエルフは、とてもこどもがだいき。こどもたちをせなかにのせてあそびます。あるひ、ライオンがやってきました。エルフはすぐにきがつき

みんなをまもるためひとりてライオンにたちむかい、おいほらきがある。とおもいました。ライオンにひとりてたちむかっていくな。わたしにはとてもできません。

「すごいぞ。エルフ」
とみんながおどりがつてよこびましたが、エルフのたいせつなあしがいつぽんくいちぎられていたので。とてもいかなかったでしょう。じぶんのあし一ぼんなくしてしまったのですから。エルフはいたみをこらえ、

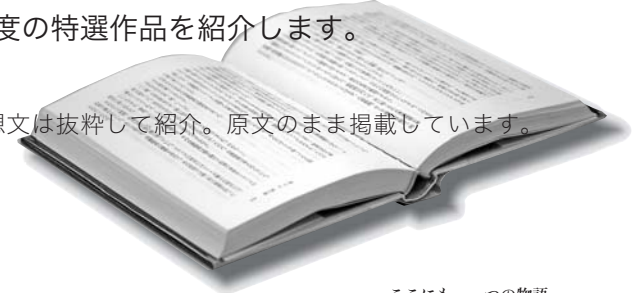
「みんなぶじてほんとうによかった」

といました。わたしだったらいたくてとてもそんなことばはいえないとおもいます。

かたあしをなくしてしまったエルフは、こどもたちとあそぶことや、しごとができなくなりひっそりとくらすようになりました。
こんどは、くろひょうがやってきました。みんないつせいにげましたが、おくれたこどもたちがねらわれました。エルフは、

「わたしは、このぼめんをよんだとき、なみだが出てきました。みんなをまもるためにがんばるエルフは、ほんとうにゆうきがあってつよいです。わたしも、エルフのようなところがほしいです」。
本を読んで感動する…。それは、大人であっても子どもであっても変わりません。
毎年、町民読書感想文・画コンクールには数多く出品があり、どの作品からも「空想世界」に思いをはせた様子が伝わってきます。そして、どんな「勇気」をもらったのかも…。本年度の特選作品を紹介します。

※感想文は抜粋して紹介。原文のまま掲載しています。



ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう

●読書感想文特選作品紹介 (抜粋)

「みんなぼくのせなかにのれ」と、かたあしでうごけないエルフですが、くろひょうがとびかかってきても、じつとがまんし、さいごのちからをふりしぼってたたかいます。くろひょうはいためつけられ、にげていききました。かたあしのエルフがかったのです。わたしは、このぼめんをよんだとき、なみだが出てきました。みんなをまもるためにがんばるエルフは、ほんとうにゆうきがあってつよいです。わたしも、エルフのようなところがほしいです。

小学生 中学年の部
中川根第一小4年 山本愛佳
マリと子犬の物語

「マリと子犬の物語」は、犬の好きな私に、親せきのおばさんがプレゼントしてくれたものだ。おばさんは、かわいがっていた子犬を亡くして、とても悲しんでいた。けいたい電話に写る写真をながめて、いつも涙を浮かべていた。そんなことを思いながらこの本を見るとマリが、

大切な宝物だった。そしてもう一つの宝物。それが「マリ」だった。捨て犬だったマリが家族になり、家の中が明るくなった。そんなある日、突然来た大地しん。去年、私が体験した地しんより、もっともつと大きな地しん。家が崩れて下じきになってしまった彩とおじいちゃん。こわかっただろう。(だれにも見つけてもらえずに、このまま死んじゃったらどうしよう) 私は体がふるえた。

「マリと子犬の物語」は、犬の好きな私に、親せきのおばさんがプレゼントしてくれたものだ。おばさんは、かわいがっていた子犬を亡くして、とても悲しんでいた。けいたい電話に写る写真をながめて、いつも涙を浮かべていた。そんなことを思いながらこの本を見るとマリが、



小学生低学年の部 特選
勝山穂乃香 (中川根南小1年)
かたあしだちょうのエルフ



小学生低学年の部 特選
中村りこ (中川根南小2年)
とべないホテル



小学生中学年の部 特選
坂下聖香 (中川根南小3年)
なきむしおにごっこ



小学生中学年の部 特選
山本愛佳 (中川根第一小4年)
マリと子犬の物語



小学生高学年の部 特選
宮島光樹 (本川根小5年)
建具職人の千太郎